

令和4年度 ICT授業活用研修会 授業公開

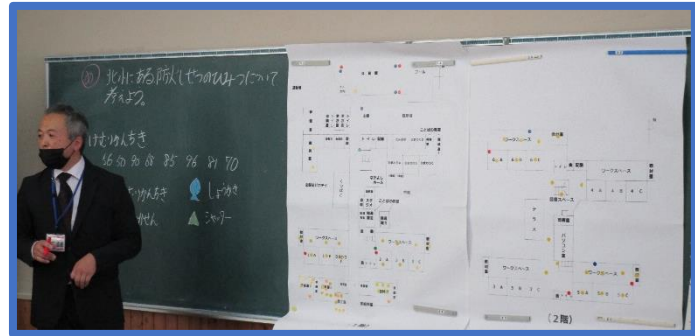
令和4年11月10日赤磐市立山陽北小学校

令和3年度から市内の小中学校では一人一台端末（ノート型タブレット端末）が整備されています。児童生徒の学習を深めるためにはどのように活用すればよいのか、授業を通して研修を行いました。

児童がタブレット端末を用いて校舎内の消防設備について調べ、個々で得た情報を全体で共有し、「消防設備のひみつ」について考える授業でした。

一人一台端末を用いることで児童は自分が見つけたことをタブレット上で表現し、一目で全体が見やすいように、模造紙で共有するといった、デジタルの良さアナログの良さを織り交ぜた実践でした。

3年生 社会科「火事からまちを守る」
津下哲也 教諭



<児童のタブレット端末の様子>

児童一人一人が端末の活用に慣れてきており、必要な画像や文書も自分で工夫して表現するなど、情報活用能力や表現力が育成されている様子を見ることができました。

<研究協議会の様子>

協議で上がったキーワード

①「相性のよい単元」

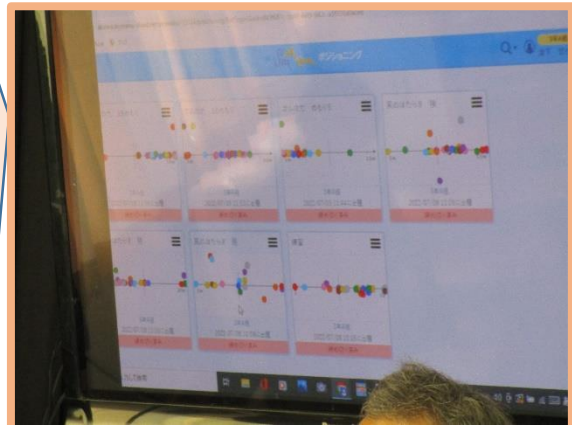
タブレット端末には様々な機能があります。それらをどの教科のどの単元で活用するかが、とても大切です。

タブレット端末を活用することで、児童の学びがより豊かになる教科、単元はどこかを教師が見極めることの重要性について、具体例を挙げながら話し合われました。

右下写真は「ポジショニング」という機能を活用した一例です。理科の「ゴムの引っ張る力と車の進む距離」を一目でわかりやすく表現されていました。

②「学びの個別最適化」

児童自身が自分に合った学び方を選択できるようにすることです。例えば、学習したことを新聞でまとめる時に、タブレット端末でまとめるのがよいか、または紙でまとめるのがよいか、自分で選択できるということです。そのためにも一人一人の情報活用能力を高めおくことの必要性についても話し合われました。



「子ども達の学びのために、端末を有効に活用したい！」という先生方の熱意をひしひしと感じました。研修面でも環境面でも市教委として、できる限り精いっぱいサポートします。